

キャリア教育の基盤は言語コミュニケーション

～日本語力が高まると、説得力が高まり、教育も変わる～

日本体育大学体育学部教授
日本キャリア教育学会常任理事
本間啓二先生

インタビュー



本間 啓二 先生

日本体育大学体育学部の本間啓二教授にお話を伺いました。本間先生は、長年キャリア教育に携わる中で、キャリア教育関係の教材やテキストの開発を行ってこられ、現在は日本キャリア教育学会の常任理事も務められています。

・キャリア教育の原点、そしてキャリア教育とは

○本間先生が、キャリア教育に携わるようになったきっかけを教えてください。

高校教員の時に進路指導とかかわったのが始まりです。全国高等学校進路指導協議会に参画してから、「進路ノート」や「進路学習ベーシックマニュアル」など数々の進路学習のための出版物をつくりました。その時に「特別活動」では当たり前だった「グループワーク」の考え方を進路学習に取り入れました。今で言う「アクティブ・ラーニング」の方法でワークシートの開発と授業づくりを進めました。

○キャリア教育は「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」だと聞いております。今、なぜキャリア教育が求められているのでしょうか。

現代は技術革新のスピードが速く、5年先の社会が予測できないほどです。今までの経験が役に立たなくなり、常に新しいことに取り組みなくてはならない時代になりました。言われたことをやるのではなく、自ら考え、課題を見つけ、率先して解決していく自立した職業人が求められています。

キャリア教育では、課題解決力を基盤とした「生きる力」を育成することを目標としています。言い換えると、一人ひとりの社会性や人間力を高めることを重視した教育で、自立した人間の育成を目指しています。だから、指導する際には、「教えるだけではなく教

えない」教育も大切になります。「教えない」教育とは、学生の自ら意欲的に学ぼうとする「学習態度」を育てる教育です。

そして、そのキャリア教育の基盤となるのが、言語コミュニケーションです。非言語コミュニケーションも、気持ちを伝えたり、受容や共感の表現として重要な役割を持っていますが、言語によるコミュニケーションは、自分の考えや気持ちを詳細に伝えるために欠くことができないものです。対人関係を構築したり、集団におけるチーム力を形成する際の基盤になる大切なものです。

・日本語力が高まると「説得力」が高まり、教育も変わる

○現代の大学生は日本語力が低下していると言われていますが、本間先生はどのように感じていらっしゃいますか。また、そのような学生を指導する際のポイントは何かでしょうか。

例えば、文章を作成する際には、自分の考えていることを筋道立てて表現することが必要になってきます。それによって読み手に対する「説得力」が高まり、文章が生きてきます。しかし、学生の書いたものを読むと、語彙の量が少ないし、言葉の意味を知らずに書いていたり、論理性を欠いた文章になっていたりと学生も多くいます。文章にすると言葉が形として残りますから、言葉を知ることがはっきり分かってしまいます。

そういう学生を指導する場合には、教員にも「説得力」が必要になってきます。学生の話聞いていただけでは解決しない場合には、学生の話をよく聞いた上で、間違いを指摘し、それを正しく

次ページへ続く >>>

理解できるように伝えることが重要になります。それが「説得力」だと思います。「説得力」を高めるには、日本語力、特に語彙を増やし、言葉の意味を正しく理解すること、論理的に物事を考えることが大切だと思います。「説得力こそ指導力」だと言えます。

「説得力」を持たない教師が、体罰を行ったり、むやみに大きな声を出して指導したりするのは、教師は、自分の言葉の重さを自覚することが重要です。不用意に発した言葉で生徒が傷つき、悩み、苦しむことがあることを自覚しなければなりません。教師が生徒に掛ける言葉は、救いにもなり暴力にもなり、その影響力は教師が考える以上に大きいものです。

・学生も教師も日本語検定で正しい日本語を学ぶべき

〇本日は誠にありがとうございました。最後に、「日本語検定」に対して何かメッセージをいただけますか。

まず、学生も教師も「日本語検定」で正しい日本語を学ぶと同時に、日本語の美しさを知ることはとても大切だと思います。それは、日本語が、微妙な言葉の選択ができる言語だからです。日本人として、それは知っておくべきでしょう。

そして、社会で生きるということは、言葉を介して自分の考えや気持ちを相手に伝え、互いに協力し合い、協調し合う関係を作っていくことから始まります。社会に出ると思わぬ人に助けをもらうこともあるし、誰かの言葉に力づけられることもあります。

人はひとりでは生きていけません。私たちがともに生きていくためには、お互いの意思を言葉で伝える必要があります。そのためには、日本人として一定程度以上の日本語力を身につけることが必要です。その意味で、「日本語検定」は、ますます、意義のある事業になっていくと思います。

◆ 本間啓二（ホンマケイジ）先生 プロフィール ◆

平成 27 年 4 月 現在 64 歳 1951 年生まれ 東京都出身

昭和 48 年 3 月 日本体育大学体育学部体育学科卒

日本体育大学体育学部 教職教育研究室 教授

【経歴】

昭和 48 年～平成 12 年 3 月 都立高等学校教諭

平成 12 年 4 月 日本体育大学体育学部専任講師（特別活動の研究）

15 年 4 月 日本体育大学体育学部助教授（特別活動の研究）

16 年 4 月 日本体育大学女子短期大学 助教授（特別活動の研究）

17 年 4 月 日本体育大学体育学部助教授（特別活動の研究、キャリア教育演習）

19 年 4 月 日本体育大学体育学部教授（特別活動の研究、キャリア教育演習、体育科教育法）

20 年 4 月 日本体育大学体育学部教授 体育専攻科長（キャリアデザイン、体育科教育法、保健科教育法）

23 年 4 月 日本体育大学体育学部教授（保健科教育法、教職実践演習、キャリアデザイン、保健授業づくり理論・実習）

【著書】

「面接試験合格法」一ツ橋書店 1994

「教員採用試験面接ノート」一ツ橋書店 1999

教職研修「特別活動の研究」アイオーエム 2009

「専門教養 保健体育科」一ツ橋書店 2011

「保健体育科教育法」アイオーエム 2013

【編著書】

「進路学習ベーシックマニュアル」全国高等学校進路指導協議会編・実務教育出版 1997

「進路指導の計画と展開」実務教育出版

「高校生の進路ノート」全国高等学校進路指導協議会編・実務教育出版 2000

「キャリア・デザイン概論」雇用問題研究会 2006

「高校生のキャリア・ノート」監修 全国高等学校進路指導協議会編・実務教育出版 2006

「保健科教育の基礎」教育出版 2010